

糖尿病サポートチーム通信

第6号

糖尿病サポートチーム(DST)です！

第6号は、薬剤師が担当します！

1年で最も冷え込みが厳しくなる季節になりました。

糖尿病治療に用いられる注射剤や検査機器も安全・安心に使用するために、冬の寒さから守る必要があります。



今回の糖尿病サポート通信では冬期における糖尿病の注射薬と検査機器の保存法についてお話をさせていただきます。

糖尿病の注射剤の保存と使用

未使用のものは2~8℃で保存して下さい。一般的には冷蔵庫のドアポケットで保存することが推奨されています。使用開始後は常温(30℃以下)での保存です。

インスリンやGLP-1受容体作動薬などの注射剤は、いずれも極端な低温下や高温下に置かれると薬液が変性して効果が正しく発揮できなくなることがあります。一度凍結してしまった製剤は使うことができないので、新しいものを使用しましょう。

糖尿病の検査機器の保存と使用

患者さんが使用できる糖尿病の血糖測定機器には、自己血糖測定器(メディセーフフィットスマイル・アキュチェックガイド)、持続グルコースモニタリング(Dexcom G6)・フラッシュグルコースモニタリング(フリースタイルリブレ)などがあります。

推奨範囲外の温度下で使用すると、測定電源が入らなかったり、エラーメッセージが表示されたり、正しい測定結果が得られない場合があります。そのようなときは、測定場所の温度環境を確認し、適温に十分なじませて下さい。

★推奨範囲の温度はお使いの製品の取り扱い説明書をご確認ください。



温度変化による結露にも注意

ペン型注入器や検査機器を取り扱う際には、結露による故障にも注意が必要です。ペン型注入器や検査機器が冷え切った状態からいきなり温度が高い環境に移されたり、急激な温度変化が繰り返されると機器に結露が生じやすくなります。保管時と使用時の周囲の温度差をできるだけ小さくしたり、暖かい場所に移動してすぐ取り出さずに少しその場の温度になじませてから使用することで、これを防ぐことができます。



冬期の屋外で携帯するときの工夫

インスリンなどの注射薬や機器などを屋外で携帯するには、適温で管理して凍結や温度変化による結露を防ぐためにも、冷たい外気温の影響を受けないようにする工夫が必要です(収納ケースやポーチ、タオルで包むなど)。特に寒さの厳しい地域へ行く際には温度管理には気をつけましょう。



次号は、4月発行の予定です。お楽しみに！

2023年2月発行

文責：山田裕子(薬)・上嶋昌和(医)



地方独立行政法人 奈良県立病院機構

奈良県総合医療センター 糖尿病サポートチーム